好きに生きてもいいじゃない

ロヒシト・マリモ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
好きに生きてもいいじゃない

【Ｎコード】
Ｎ７７９３Ｘ

【作者名】
ロヒシト・マリモ

【あらすじ】
お気楽に好き放題やる正体不明の謎の人の話し、とりあえず世界征服を考えてみた、うん、かっこいい（／／▽／／）自分勝手な主人公です

さてさてどうしようか？（前書き）

好き放題やる人を書いてみたくなりました！

さてさてどうしようか？

ジリリリリリ！

オ、オー！流石は大手の銀行、大音量ですね～（σ・∀・）σ
お！？あれは僕の好奇心をくすぶる形デ～ス。
ふんふん、オリャ！
「ゴロゴロ」「バキャ！」
やはり僕の好奇心に勝てるモノなし！

ふはははは！

ドタドタドタドタ。
「…！…そこまでだ！」
おっとっと、来ちゃったか～、
怪盗オレ見参！
「…捕らえろ！」
あれれ～ちょっとちょっとリアクションが無くないか～い

まあいいや、怪盗即ち紳士、それを究極まで極めるとなんと変態になるのだ！
「！…化けモノか！？」
全く、人がせっかく紳士とは何かをヒモ解いていた所なのに最後まで聴いてくれたのは一人だけって…ギャラリーって必要だと思うんだよね、オォー！閃いたぞ～、この転がってる奴らをギャラリーにしちゃおー！

ほほいのホーイ

「！…」
うわ～迫力あるな～流石は国兵。
ゴホン、さてさてギャラリーの準備も整ったし、これはあれですね、決めゼリフみたいなモノを言ってかっこよく去っていく場面ですよね！？
「…」
あれは！
ギャラリーの中に一名完全に燃え尽きてる人がいるじゃあーりませんか～★
君はまだ終わってない！さあ燃えあがれ！
「…！？ガ、アァァぁぁ」
オオ、イエー！
熱狂的なファンに大変身だ！、体が燃える程の思い、確かに受け取った（＿☆）
それではさらばだ！

名乗っておこうと思った（前書き）

システムがまだよく分からない（＋＿＋）

名乗っておこうと思った

建物から出ようと思った所で思いだした
大事なことを忘れる所だった～（「∀｀）
やっぱり名前を残さないとね☆

う～ん、何にしようかな～♪

ポン！

閃いたぞ～、やっぱりイニシャルってかっこいいよね！

おっとっと、考えてたら外に出ちゃった☆
でも、外からの方がでっかく描けるからまあいいや（＝＾▽＾＝）
よいしょー♪

ちょっとはみ出しちゃった☆、でも、僕の情熱はこんな所には収まりきらないって証しみたいでかっこいい！（／／▽／／）

…ハ！！あまりの出来栄えに見とれてしまった？（「口｀）

さーてと、旅立つモノは手に入ったし！僕の夜はこれから始まるのさ！（ｂ＾－゜）

変わる世界（前書き）

不定期です、投稿不定期です

変わる世界

＊　＊　＊

今日はとっても気持ちがいい！

だって昨日の夜、彼からのプロポーズを受けたんだから♪

いつもよりも弾んだ気持ちで私は自分の指に嵌った指輪をおもわず顔がニヤニヤしながら眺めていた

「お！？今日はご機嫌だね～」

声のした自分の前に意識を向けると

黒色の長くもないが短くもない髪はボサボサで寝癖のような髪型をして、顔にはサングラスとマスクをして、薄茶色のロングコートをきた年齢不詳の男が

窓口の対面に座り、腕を組んでいた。

見るからにただの変質者にしか見えない男だが、私は不機嫌を露わにしながら目の前の男を睨んだ

「そんなに見つめられるとこまっちゃうな～～（／／▽／／）」

私が睨んだのをどう解釈したのか、気持ちワルく組んでいた腕で自分を抱きしめてクネクネし始めた

……キモイ。

「死ねキモイ」

あ、ヤベ心の声にプラスで本音を付けてだしちゃった

「グッサー！僕のハートにストライク！キミの瞳にフォーリンラブ☆！」

何かストライクさせちゃったらしい、そのままアウトになって早く帰れ！

ていうか、ホント帰れ（＊´Д｀）＝３

話したくないけど、貴重な情報原なので仕方なく話し掛ける

「で？今日はなんなの？」

未だにクネクネしながら男は話しはじめた……メチャクチャ蹴り飛ばしたい。

「キミに、ハア、ハア、そろそろ、ハア、動いて、ハア、ハア、欲しいそうだよ、僕とキミとの距離も、ハア、そろそろ動いて欲しい（照）」

クネクネしながら汗をかいてハアハア、ハアハア、…コイツマジ死

ね！

「グッハァ～（嬉）」

思わず立ち上がって蹴り飛ばしてしまった（爽快）

蹴った相手がニヤついていたのは……

…追撃をかけようか。

「…了解したわ…」

「ハアハア（／／▽／／）

僕とキミとの仲も了解だよ（≧≦▽≦≦＊）ぃ」

…この変態ゴミは…焼却してやろうと思ったら消えやがった

それと一緒に周りが動き出す

「先輩どうしたんですか？」

隣の窓口に目をやれば、若干怯えた後輩の女の子が顔をひきつらせていた

「なんでもないわ」

満面の笑みを見せて早々に会話を終わらせた
もうそろそろ幕が上がるって事なのかしらね

「ジリリリリ！」

非常用ベルが館内に響き渡った

周りは若干の混乱はあるものの落ち着いているようだ
ドタドタと、この建物に併設してある国兵詰め所から武装した人達が走って行くのが窓口から見えた

「先輩、何か嫌な予感がするんですが…」

あんた居たのかよ！嫌な予感してるなら先ず窓口から離れろよ！
他の奴らは私らみたいに座ってすらいないからね！
せめて立っとこうよ！

「あっちは金庫ですよね、泥棒でも入ったんでしょうか？」

一通り隣りの娘にツッコンで遊んでた（心の中で）…さあね～、ま、どうでもいいけどね。

国兵の皆さんが行って少し後、銃撃音や叫び声が響いてきた
それを聞いて周りはパニックになり建物から慌てて飛び出して行く
…チラッ、と、隣りを見る…流石にいないか、これで居たらネジが

数本飛んでるか、只の馬鹿だろう…私は馬鹿じゃないよ…

私は誰も居なくなったおかげで周りを気にする必要がなくなったのでとりあえず窓口に足を組んで乗せてみた…何かスッキリする

その体勢のままマッタリとしていると、

私の目の前をうんうん唸りながら大き過ぎるマントを引きづった黒髪の少年が出口に向かって歩いて行く

…何なんだコイツは…このちんちくりん、凄まじい血の臭いがしやがる、こっちには気付いてないみたいだが…

少年を観察しているとそのまま出口のガラス張りの扉を開けて外に出て行った…数歩歩いた所で何か閃いたのかしきりに頷いている

…コイツ空飛びやがった、数舜後、私の居る建物が何度も凄まじい衝撃を受けているようだった、天井の照明器具や時には天井その物が降ってきていた

私も存外、狂っているんでしょうね

これからが楽しみで仕方無い♪

それじゃ、あの人の指示だし私も動き出そうかな～

彼女は指に嵌めていた指輪を外すとその場から姿を消した

遊びに出掛けたら楽しかった！（前書き）

俺オレ視点です、

どうしても短くなるな～ｆ^｜^；

遊びに出掛けたら楽しかった！

ルンルン♪ルンルン♪
大きな道はやっぱり真ん中を歩きたいよねｏ（＾▽＾）ｏ
いろんな物が置いてあって障害物走みたいで結構楽しい！
しかも！時々いろんな物が僕の道に置いてあるんだ！
ヤッホーイ！
ボギャ、ゴシャ！ゴロ、グシャ

大きな道って楽しい事がいっぱいだね～！
あれは！？、ま、まさか、ロボットだと！？
おっほっほっほ（＾Ｏ＾）
こんな好奇心を誘う物が道端に落ちてるなんて！
拾っても問題ないよね？
だってロボットから僕に熱烈なアタックがきてるし
その思いを無碍にするのは、僕には出来ない！！

トウ！

熱烈なアタック、確かに受け取った！

とりあえずポケットにしまっておこ（喜）

おっと！そうだった！僕は怪盗でした（／　＾＾）／

よ～し！変身！

こんな感じかな～、さてっと、そろそろ帰ろうかな～、玩具も手に入ったしね～

ばいば～い☆

遊びに出掛けたら楽しかった！（後書き）

ヒロイン？が、登場するかも？

壊された日常（前書き）

書くのが楽しくなってきた

壊された日常

＊　＊　＊　＊

通報があったのはほんの数十分前だ。

この国最大の銀行からの出動依頼がきた

正確にはそこに兵を派遣していた国営警察からの要請だ

あそこは安全性を考えて国に多額の寄付をし、国運営の「警察」、一般では「国兵」と言われる兵士が駐屯しているはず、と言っても配備される人員は其処まで屈強とは言えない者達だが

その代わり規律が厳しく統制がとれている

現在では数多くの女性が国営警察の重要な役職についていると聞く

ハッキリ言って羨ましい！

こんなムサイ奴らしかいない所になんて居たくない！

「真剣な顔して～、そんなに気張らなくても大丈夫さ☆、だって僕が居るんだ・か・ら（^＿ー）☆」

…ひねり潰して〜！その無駄過ぎる整った顔をこう、グシャっと。

「グシャ！？」

あ、潰れた（♪）

一気に車内が静かになった。

手に汚い物が付いたから伸びてる奴の服にこすりつけといた

ちょうど車が止まり運転席と後ろのトレーラーを繋ぐ扉が開いて社長が入ってきた

「まあ、お前らの仕事は決まっている訳だが、とりあえず適当に死なない程度に頑張ろう」

…小さくガッツポーズを決める小柄な…いや我らがチビガキ社長がいた

「情報だと単独犯って事らしい、ただ、単独で国兵５０人を殺し、銀行を半壊させる程の規格外って事だけど」

…面白いじゃん

こんなムサイ所にいて、鬱憤が溜まってた所だったし、規格外が相手なら武装は自由、リミッターも外せる！

これほど嬉しい事はない！

「この優雅な僕にはふさわしい相手だね（　，　ー、）」

復活しやがったか。

「ぐふ、酷いじゃないか…」

こちらに目線をチラチラ送って来るのでちょうどいいから武器の試し撃ちの的にした（スッキリ）

「はーい、ふざけるのはその位にして、配置に着いちゃってー」

スッキリしたし、後はメインディッシュを頂こうっと（ワクワク♪）

＊　＊　＊

周りには残骸や死体が転がっている。

俺ら以外にも招集された会社があったようだけど、軽々と弾き飛ばされたり退却したりと結局の所、なすすべなくやられている状況だ

「こりゃ、不味いかな（苦）」

うちの社員はたった2人、だが2人共規格外認定をされた、言うなれば化け物だ

規格外には規格外しかないよねって思ったんだけど

視線を前に向ければいったい何回死んで居るのか、何度も体を吹き飛ばされながらも喜々として飛びかかっている男。

その男の顔は歪な笑顔を貼り付けていた
脇を見れば少し離れた所に体の何倍もある大型銃火器を派手にぶっ放している見目麗しい女

彼女はもう一人の男に当たる事などお構いなしに砲撃している

彼女の顔は…酷く険しい顔をしている。

…いや、何かイライラしているのか?、な、どっちにしろこのままじゃジリ貧だ。

視線を敵に向ける、見た目はただのその辺の子供だ、規格外2人の猛攻を受けても足止めどころか進む方向すら変えられていない状況を見ていなければだが

ゴシャン！

あ～、キレちゃったかな～、危ないから離れよ。

女の方をチラッと横目で見たら完全装甲機動兵器、あ～ま～見た目二足歩行ロボットなんだけど

体中の銃火器を一斉に子供に向けてぶっ放し始めた

銃撃と言うより爆撃だな。…俺の居た所も爆撃されてた。

俺、君達の社長だよ（「○」；）

しばらく爆撃を眺めてたら何かが爆撃に巻き込まれながらこちらに近寄って来た

…ホントに気持ち悪いなコイツ。

「コホ、コホ、僕のエレガントボディー、エクセレント☆」

…何しに来たんだ。コホ、コホの部分で尋常じゃない血を吐血してるし

「僕のエレガント・アイは美しい物しか見えないのさ
ゞ（，ー、）」

…あ～、爆煙で見えないからこっちに来たのね。

「社っ長さんは僕のエレガント・アイなら見えるから大丈夫ですよ（キラ）」
…こいつ遠回しにチビって言いたいんだろ（ー．ー＊）
ていうか近づくな！血だらけで内蔵とか零れ出しながらウインクしてもキモいだけだ！

エレガントを連呼しながら吐血する汚い奴は無視して、爆心地に目を向けた。

未だに凄まじい爆発が起こっている
…いつまで彼女は撃つつもりなんだ。
ふっと、爆撃が止んだ。やっと満足したのか。

グワン！

女の方を見たら二足ロボが空中で何かに締め付けられて浮いていた

爆煙の中から子供が歩いて出てきた…傷どころか、服に汚れすら付いていない。

…本物の化け物っていうのはああいう奴をいうんだろうね。

子供は宙に浮いたロボに近寄り、それを掴んだ所で短パンのポケットにロボが吸い込まれていった。

…大事な社員が。

社長としては責任があるし、少ない社員を手放したくないんだけど！

「彼女をお持ち帰りなんて、羨ましい事させませんよ！」

隣りを見てみたらそこにはキモエレガントは居なかった。

あの化け物に特攻していた…正面からじゃ、ありゃ無理だな化け物の臭いは把握出来たし、恐らく彼女はまだ死んだ訳ではないだろうしな。

ここは、動かない方が良さそうだな。

子供は変なポーズを取ってピカピカ光ながら消えていった。

「お持ち帰りされた～m（T＿T）m」

…変態キモ男の嘆きだけが虚しく響いてきた

壊された日常（後書き）

細かい説明などはほとんどしません。

細かい説明を入れると書きにくいです

（苦汗）

こっちの方がサクサク書けるのでこのまま突き進みます。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7793x/

好きに生きてもいいじゃない

2011年11月1日03時16分発行